

3.14.2 社会還元促進部門 情報システム室

室長 青木哲郎 ほか5名

情報インフラの整備・運用や情報セキュリティ維持を通して研究活動をサポート

【概要】

NICT 内の情報インフラである共用ネットワーク、共用サーバ、外部接続ネットワーク、事務部門用共用パソコン、テレビ会議システム等の整備・運用及び情報セキュリティの維持・監視を行い、高度な研究活動やその支援業務をサポートしている。

(1) 情報インフラの整備・運用

高度な情報インフラを整備することにより、役職員が利用する際の利便性を向上させるとともに、業務の効率化等を実現する。業務系情報システムの構築、改修、運用等を経営企画部と協力して効率化する。

(2) 情報セキュリティの維持・監視

不正ソフトウェアの侵入等の不正アクセスや外部からのサイバー攻撃等から NICT を防護し、安全に情報システムを利用できるようにする。

(3) 研究開発のサポート

研究者の情報基盤構築をサポートし、研究成果の実証と外部への発信をサポートする。また、NICT で開発された技術を、NICT 内の実際のネットワークで実運用することにより、NICT 発技術のショーケースとしての役割を果たす。

【平成 25 年度の活動実績】

(1) 情報インフラの整備・運用

① 従来は、地方 3 研究所や 6 研究センター等各部署で独立して契約していた情報システムの運用を、平成 26 年 4 月から本部にて一括で管理・運用するための契約等の各種手続き（内閣府官民競争入札等監理委員会の公共サービス改革に対する対応）を進め、調達等の事務の効率化、ワンストップ窓口による手続きの迅速化等、情報の効率的な利用の推進を行い、大幅な経費のコストダウンを実現した（図 1）。

② 各部署で個々に行っていた業務の効率化やシステムの統一管理が可能となり、システムの重複をなくすなど、一貫した効率化を進めることができた。また、Adobe Acrobat や Microsoft Office など、NICT 内で共通的に使用するソフトウェアの一括購入によって、NICT 全体の業務効率化やコストダウンを実現するとともに、ソフトウェアのバージョン管理などでセキュリティリスクを軽減することができた。

③ 本部で運用している情報システムの中でメールサーバや DNS サーバ等の重要なデータのバックアップを他の場所のデータセンタに保存することにより、冗長性を持たせたバックアップシステムの運用を開始し、大規模災害発生時等の緊急時の業務継続性を高めた（図 2）。

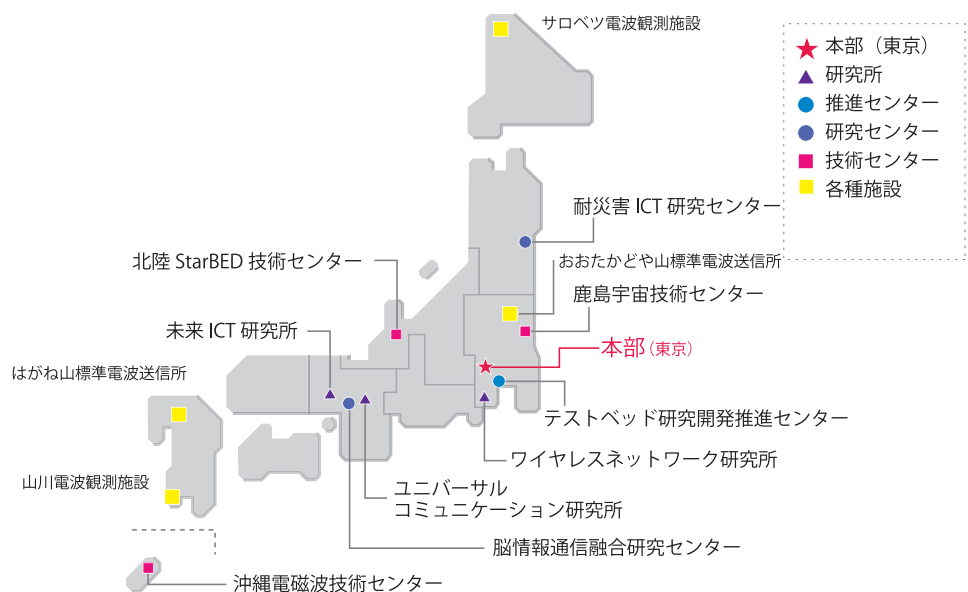


図 1 NICT の拠点の情報システム、ネットワークを一括管理し、コスト削減とセキュリティを向上

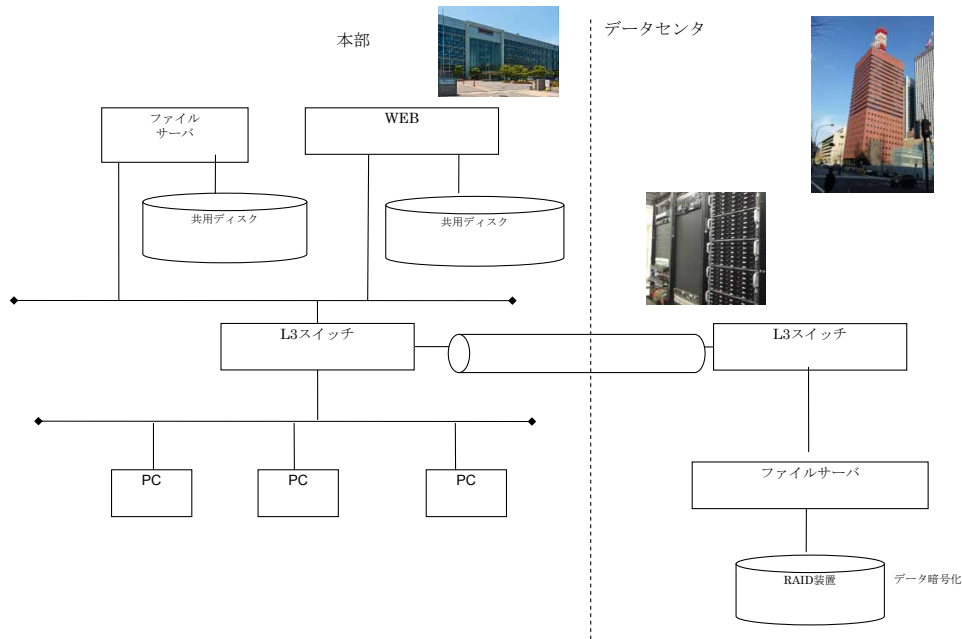


図2 データセンタへのデータバックアップの概念図情報

(2) システムの安全性(セキュリティ)の確保

- ① 平成25年4月に発足した機構内のコンピュータセキュリティ対応の専門チームCSIRT (Computer Security Incident Response Team)により、情報セキュリティインシデントの発生時に、ネットワーク切断やその対応策などを迅速に実施し、事故の拡大を防ぐなど適切な対策を行うとともに、再発防止の対策をとることができた。
- ② 全職員等を対象とした情報セキュリティ自己点検(平成25年8月)や情報セキュリティ研修(平成26年2月)、標的型メール攻撃対策訓練(平成26年2月)を実施し、個々のセキュリティ意識の向上を図った。

(3) 研究開発のサポート

- ① 様々な研究成果発信が可能な高度なセキュリティレベルを有する公開用のWebサーバの整備を行い、研究室に提供することで、研究成果の安全な公開を可能にし、成果の発信に貢献した(図3)。



図3 研究成果公開用Webサーバの発信例(左から、超高感度大気環境計測、日本標準時、合成開口レーダ)